

## 博士後期課程研究指導一覽

※新規募集の研究指導を追加しました (2011. 11. 7)

### ◆博士後期課程 経済学専攻

コース名	研究領域名	専修名	指導教員名	指導言語 (日本語:J/英語:E)		研究指導コード	
				J	E		
経済学 コース	経済理論	理論経済学	永田 良 教授	J	E	1Y1	
			荻沼 隆 教授	J	E	1Y2	
			荒木 一法 准教授	J	E	1Y3	
			田中 久稔 准教授	J	E	1Y4	
			笠松 学 教授	J	E	1Y5	
			笹倉 和幸 教授	J	E	1Y6	
			藤森 頼明 教授	J	E	1Y7	
		数理経済学	船木由喜彦 教授	J	E	1Y8	
		経済学説史	渡会 勝義 教授	J	—	1Y9	
	若田部昌澄 教授		J	E	1Ya		
	統計・計量分析	計量経済学	近藤 康之 教授	J	E	2Y2	
		統計学	西郷 浩 教授	J	E	2Y3	
		経済統計	野口 和也 教授	J	—	2Y4	
		数量経済政策	貞廣 彰 教授	J	—	2Y5	
			上田 貴子 教授	J	E	2Y6	
		産業エコロジー	中村慎一郎 教授	J	E	2Y1	
		金融工学	玉置健一郎 准教授	J	E	2Y7	
	経済史	西洋経済史	南部 宣行 教授	J	E	3Y2	
		日本経済史	川口 浩 教授	J	—	3Y3	
		アジア経済史	本野 英一 教授	J	E	3Y5	
	経済政策	経済政策理論	△ 鈴村興太郎 教授	J	E	4Y1	
			松本 保美 教授	J	E	4Y2	
		産業組織論	堀内 俊洋 教授	J	—	4Y3	
		農業経済学	×				
		金融論	<b>小倉 義明 准教授</b>	<b>J</b>	<b>E</b>	<b>4Y6</b>	
		比較政治経済論	清水 和巳 准教授	J	E	4Y7	
	公共政策	社会政策	白木 三秀 教授	J	E	5Y1	
		社会保障	清水 英彦 教授	J	—	5Y2	
		労働経済学	村上由紀子 教授	J	—	5Y3	
		公共経済学	須賀 晃一 教授	J	E	5Y4	
		財政学	×	牛丸 聡 教授	J	—	5Y5
				馬場 義久 教授	J	—	5Y6
		環境経済学	<b>有村 俊秀 教授</b>	<b>J</b>	<b>E</b>	<b>5Y7</b>	
	<b>公共政策</b>	<b>福島 淑彦 教授</b>	<b>J</b>	<b>E</b>	<b>5Y8</b>		
	国際経済	国際経済論	□ 秋葉 弘哉 教授	J	E	6Y1	
			石井 安憲 教授	J	—	6Y2	
			内藤 巧 教授	J	E	6Y3	
			金子 昭彦 教授	J	E	6Y6	
		開発経済論	深川由起子 教授	J	E	6Y4	
		国際政治経済学	小西 秀樹 教授	J	E	6Y5	

× : 2012 年度学生募集を行なわない、△ : 2012 年度 4 月入学のみ募集、□ : 2012 年度 9 月は募集を行う

※研究指導・授業科目および担当教員については、変更となる場合があります。

※研究指導教員名に付されている「×」印の教員は 2012 年度の学生募集は行ないません。

※研究指導教員名に付されている「△」印の教員は 2012 年度 4 月入学のみ募集します。

※研究指導教員名に付されている「□」印の教員は 2012 年度 9 月入学は募集します。

※英語での研究指導に対応する教員は、指導言語欄に” E” が表示されています。希望している指導教員が必ずしも英語による指導を行なわないことがありますので、出願前に上表にて確認してください。

## 博士後期課程研究指導内容紹介

研究指導名	理論経済学研究指導 —ミクロ経済学の数学的方法—	担当	教授 永田 良 博士（経済学）早大・京大
研究テーマ	博士後期課程では、学生に対し博士論文の作成を目指した専門的指導を行う。志望学生は一般均衡理論あるいはその周辺領域に関する特定のテーマを予め決定していること、そしてその研究のための準備が或る程度なされていることが要求される。		

研究指導名	理論経済学研究指導 —不確実性とゲームの理論—	担当	教授 荻沼 隆
研究テーマ	選択理論・ゲーム理論をベースに経済理論の研究を行う。この研究指導では適当なテーマにそって論文等を読み進める予定である。 志望する学生は、大学院の基礎レベルのミクロ経済学、ゲーム理論、数学の知識が要求される。		

研究指導名	理論経済学研究指導 —進化動学による理論・応用研究—	担当	准教授 荒木 一法
研究テーマ	<p>経済理論は大きな進歩をとげてきましたが、今なお多くの問題を抱えています。例えば、多くの経済モデルには多数の均衡が存在し、理論の説明力を弱めています。また、広く受け入れられている合理的行動モデルの予想とは整合的ではない行動が観察されることも少なくありません。これらの問題に対しては、様々な接近方法による研究が進められていますが、その一つに「進化論」のアイデアに依拠した、進化アプローチがあります。進化アプローチは、大きく①生物としての人間の進化過程をたどることによって人間行動を理解しようとする試みと②人間の学習過程を進化動学で近似し、学習の結果として人間行動を理解しようとする試みがあります。これら二つは互いに排他的なものではありません。人間の行動は、人間としての生来の性質と経験（ないし環境）の双方による影響を受けているので、二つの試みは互いに補完的な役割を持つのです。進化アプローチによって、人間が「あたかも」効用関数を持つかのように行動するのは何故か、効用関数がある特定の「形」をもっているのは何故か、期待効用理論に整合的ではない行動が観察されるのは何故か、といった理論の基礎に関する問題とともに、様々な応用研究が進行中です。</p> <p>この分野での研究を行うにあたっては、大学院レベルのミクロ経済学の十分な理解とともに、他の関係分野、特に、生物学、心理学、人類学、社会学などに対する関心、端的には広い関心と異なる分野や考えに対してもそこから多くを学び取ろうとする態度を持つことが前提条件となります。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	准教授 田中 久稔
研究テーマ	経済学において有用な数学的・統計学的ツールを新たに開発することを目標とする。受講生には数学や統計学に関する十分な知識に加えて、経済理論に関する幅広い関心を望む。		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	教授 笠松 学
研究テーマ	生産と分配に関する理論，特に交換と消費の理論から派生した分配の理論との比較・対照という観点に関心がある。こうした考え方は，時に，「ポスト・ケインジアン」，「スラフフィアン」，「Long-period analysis」など様々な呼び方をされる考え方と多くの接点があり，したがって，しばしばそれらに言及されることに留意されたい。		

研究指導名	理論経済学研究指導—マクロ経済理論—	担当	教授 笹倉 和幸 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	マクロ経済理論，特に景気循環理論と経済成長理論を中心とした動学理論を研究する。扱う主なモデルとしては伝統的または新しいケインズモデルと，新古典派的な最適成長モデル，世代重複モデルである。扱う主な数理としては周期解やカオスの存在に関する非線形理論と，変分法や動的計画法などの最適化理論である。今日のマクロ経済理論を研究するため，志望者には以上の他に統計学，計量経済学の知識が要求される。		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	教授 藤森 頼明 経済学博士（北大）
研究テーマ	<p>主たる研究テーマは、学的な枠組みによる分配と成長の現代的理論の追求である。基礎理論の習得としては、線形の生産関数を有する体系をベースにした資本の分配と成長の理論を研究する。具体的な経済学者としては、例えば、置塩信雄、森嶋道夫、Pasinetti、Sraffa等を対象とし、彼等の著作やその周辺に位置付けられる文献を取り上げる。</p> <p>理論の具体的な肉付けの一環として、線形経済モデルと産業関連表との関連や、動学理論と時系列データの分析等、現代的理論のもつ射程距離も検証する。</p> <p>線形代数と解析の初等的な知識は不可欠である。また、より実戦的な接近法として、計算機による様々なsimulation（数値計算・数式処理等）も重視する。志望者はこれらの方法論的な側面にも興味を有することが望ましい。</p>		

研究指導名	数理経済学研究指導 —ゲーム理論（研究）—	担当	教授 船木由喜彦 理学博士（東工大）
研究テーマ	本研究指導においては、ゲーム理論の先端的な文献を研究し、それを基に理論的なテーマに関してオリジナリティのある研究を行い、その成果を審査付き国際学術誌等に投稿することを目標とする。これらの成果を集成して、最終的に博士論文としてまとめることを目指す。理論的な研究を中心とするため、数学（位相数学、最適化理論）およびミクロ経済学に関する正確な基礎的知識があることが前提となる。ゲーム理論の知識としては岡田章『ゲーム理論』（有斐閣）と同等なレベルの内容を完全に理解しておくことが必要である。		

研究指導名	経済学説史研究指導	担当	教授 渡会 勝義
研究テーマ	経済学史および経済思想史の分野の研究テーマについて専門的研究指導を行う。博士論文を書くことが目標であるので、志望者はすでに自分の研究テーマを確立しており、経済学史・経済思想史の基礎的知識をもっていることが必要である。私は、イギリス経済学史、とくに古典派経済学およびケインズの経済学に主たる関心を持っているが、志望者の研究テーマは経済学史あるいは経済思想史の範囲のものであればよい。		

研究指導名	経済学説史研究指導	担当	教授 若田部昌澄
研究テーマ	<p>この研究指導では、経済学説史の研究を行い、学術的な評価に耐えうる博士論文を完成するように学生を指導することを目的としている。研究主題の選択は学生の自由な選択に任されているものの、講師の最近の関心は経済政策と経済学説史の接点にある。経済学が選択の科学であるとするならば、その選択は所定の情報・知識のもとで行われる。過去の経済政策がいかなる情報・知識のもとで行われるかを理解するには経済学説史の知識が必要である。なお、志望する学生には、大学院修士で学ぶ程度の基礎的な経済学の理解と、邦語・外国語文献を読み解く読解力、そして研究成果をきちんと口頭・文章で発表する表現力が必要である。</p>		

研究指導名	計量経済学研究指導	担当	教授 近藤 康之
			博士（社会経済）（筑波大）
研究テーマ	<p>本研究指導は、応用ミクロ計量経済分析（産業連関分析を含む）を主題とする。必要に応じて、関連する計量経済理論的研究も扱う。応用分析対象の基礎となる経済理論の学習、関連先行研究の文献調査等、および研究科授業科目では扱われない計量経済学方法論について指導を行う。</p> <p>研究成果を査読付き学術雑誌に投稿すること、および在学中に学位論文を提出することが重要な目的である。したがって、論文を書いて発表しようとする意志を持っていること、および研究に必要な基礎学力（計量経済学、経済理論）を習得していることが求められる。</p>		

研究指導名	統計学研究指導—経済統計データの作成・分析に関する統計理論的研究—	担当	教授 西郷 浩
研究テーマ	<p>本研究の目的は、経済分析に利用される統計的手法について、多角的な視点から検討することにある。具体的には、多変量解析法や標本調査法、リサンプリング法などが研究の対象となる。統計研究者には、統計データ作成の仕組みに関する知識も不可欠なので、これについても指導していきたい。</p>		

研究指導名	経済統計研究指導	担当	教授 野口 和也
研究テーマ	<p>本研究では、各自の研究テーマに必要な統計的手法と計算方法について研究する。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導	担当	教授 貞廣 彰
			経済学博士（京大）
研究テーマ	<p>本研究指導では、世代重複モデルを用いて日本経済への応用研究を行う。そのために、まずこれまでの先行研究を消化するとともに、日本経済への応用として、財政の持続可能性、人的資本のモデル化と高齢化問題、年金制度のモデル化、貨幣とインフレ率のモデル化、流動性のワナのモデル化、二ヶ国連絡モデルの構築等について研究する。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導 —家計行動の実証分析—	担当	教授 上田 貴子
			Ph. D. (ウィスコンシン大マディソン校)
研究テーマ	<p>マイクロ・データ及びパネル・データを対象とした、主として家計行動における実証分析に関する研究指導を行う（時系列データは扱わない）。</p> <p>実証分析を行うための、大学院中級レベル以上の計量経済学の知識と、実証研究の英語論文を読みこなし、統計言語を使用したシミュレーションや推定のためのプログラミングが行えるコンピュータスキルの習得が望ましい。</p>		

研究指導名	産業エコロジー研究指導	担当	教授 中村慎一郎
			Dr. rer. pol (ボン大)
研究テーマ	<p>経済と環境の相互依存関係を探求し、持続可能経済の達成を計るのが産業エコロジー学(Industrial Ecology, IE)の目的である。このために重要な課題が経済活動の及ぼす環境負荷を定量的に評価することである。そこでは、経済と環境の関連を現実的かつ操作可能な形で表現する数理モデルが中心的な役割を果たす。この種のモデルとして近年注目されているのが中村等が開発した廃棄物産業連関モデル(WIO)である。本指導では、履修者の研究関心を考慮した上でIEへの応用を念頭に置いたWIOの理論と応用、及びその周辺領域を扱う。指導の目的はIE分野における国際主要学術雑誌水準の論文を作成できるようにすることである。</p>		

研究指導名	金融工学研究指導	担当	准教授 玉置健一郎
			博士(理学)(早大)
研究テーマ	<p>本研究指導では、経済・金融データの分析を行うための時系列解析における理論の構築と、コンピュータによるデータ分析やシミュレーションを行い、その成果を学術論文にすることを目標とする。本研究では、数学・統計学の知識が必要である。また、学会や研究集会に積極的に参加し、研究成果の発表を行うことが望ましい。</p>		

研究指導名	西洋経済史研究指導	担当	教授 南部 宣行
研究テーマ	<p>第1次世界大戦までのイギリス社会経済史全般を主として研究対象としており、資本輸出(対外投資)、生活水準、鉄鋼業(とくに南ウェールズ)等をめぐる諸問題を中心に検討している。また、近年、第2次世界大戦以降の全体的な経済動向についても研究対象に加えている。</p> <p>方法論的には、歴史学の伝統的な実証的方法のみならず、とくにHistorical Economicsでとられている方法を積極的に取り入れるとともに、現代の諸問題との関連に強い関心をもって取り組んでいる。</p>		

研究指導名	日本経済史研究指導	担当	教授 川口 浩
研究テーマ	<p>本研究指導では、近世～近代における日本経済の実態、並びに日本経済の担い手たちの経済思想の歴史的分析を目指している。受講者は日本経済史・経済思想史に属する諸問題の中から自己の研究テーマを選択することができる。受講に際しては、当該領域に関する高度な専門知識を習得していることが必須である。また、史料の正確な解釈を前提とする実証性重視の冷静な研究態度が要求される。</p>		

研究指導名	アジア経済史研究指導	担当	本野 英一 教授 D. Phil. (オックスフォード大)
研究テーマ	<p>19世紀後半から20世紀前半期にかけての中英経済関係史に関する英文、中国語史料を精読しながら、辞書、参考図書の使用はもとより史料批判の仕方、広く歴史学的思考法の何たるかを学ぶ。使用するテキストは、イギリス外務省領事報告文書(F0228)に収録された英文、漢文文書を中心に、これと関係した当時の英文、中国語新聞記事、裁判記録である。ここ数年は、拙著『伝統中国商業秩序の崩壊—不平等条約体制と「英語を話す中国人」—』(名古屋大学出版会、二〇〇四年)で使用した史料を用いるので、参加希望の学生は、予めこの書物を購入しておくこと。この演習は、修士課程の大学院生、学部学生と合同で行なう。演習は、参加者の担当個所を予め決めず、出席者が全員担当することを原則とする。</p> <p>この史料講読演習の他に、邦文、英文、中文で書かれた学術書、論文の輪読も並行して行なう。学生各人は、こうした演習と並行して各自の研究活動を行なうこと。</p>		

研究指導名	経済政策理論研究指導	担当	特任教授 鈴木興太郎 経済学博士 (一橋大)
研究テーマ	<p>規範的経済学の基礎理論を深く学ぶ目的で、以下の構成の講義と討論を行う。参加者には、論理的思考の徹底した習得に耐える忍耐力および多数の参照論文と取り組む意欲を求めたい。</p> <p>第I部 経済計画理論  第1講 プロローグ  第2講 囚人のディレンマと集団的行動  第3講 社会的目的形成の論理  第4講 社会的選択と個人的誘因との両立可能性  第5講 公共財配分の誘因両立的メカニズム  第6講 社会的選択と市民的自由  第7稿 エピローグ  第II部 25年後の社会的選択の理論</p>		

研究指導名	経済政策理論研究指導 —経済政策のための理論的整合性に関する研究—	担当	教授 松本 保美 D. Phil (オックスフォード大)
研究テーマ	<p>経済政策論の前提として、社会的選択理論を中心とした基礎理論の成果と、主としてミクロ経済学を中心とした近代経済学理論の間の整合性を数学的・論理的に検討することが本研究における第一の目的である。第二の目的として、参加者に、独創的アイデアの提示と、新しい定理の発見・証明を求める。英語と数学に関する高い能力、および経済理論に関する広い知識と理解が必要である。具体的な政策論は講じないので注意のこと。なお、講義は全て英語で行われる。</p>		

研究指導名	産業組織論研究指導	担当	教授 堀内 俊洋
研究テーマ	<p>研究指導目標は、主には日本の特定の産業や活動を選び、そのダイナミックな変化を実証的に考察し、論文にまとめることである。産業組織論はミクロ経済学の応用であることはいうまでもなく、産業組織論はある程度の理論や数学を必要とするが、論文を完成させるためにはそれだけでなく制度や実態について幅広い素養を身に付けようという態度も要求される。数学的な素養や努力がなければ産業組織論の理解は困難だが、モデルだけで現実の興味深い現象を説明できないこともまた事実だからである。このような幅広い興味と能力を身に付けようという学生諸君の熱意と精進があれば、論文は自ずと完成されるだろうと思います。</p>		

研究指導名	農業経済学研究指導	担当	
研究テーマ	●2012年度は学生の募集は行なわない。		

研究指導名	金融論研究指導	担当	准教授 小倉義明 Ph.D. in Economics, Columbia University
研究テーマ	<p>金融契約あるいは金融仲介に関する理論・実証研究を行う院生を対象に博士論文作成の指導を行う。国際的査読付専門誌に投稿するに足る英語論文を概ね年に1本は作成することが要求される。少なくとも大学院修士レベルの金融・ファイナンス、情報の経済学、および計量経済学をマスターしていることが必須である。</p>		

研究指導名	政治経済学方法論研究指導	担当	准教授 清水 和巳 Doctrat de Théorie Economique Université de Grenoble II
研究テーマ	<p>現代経済学は、経済分析の出発点としておくべき「経済人 Homo Economicus」の見直しをひとつの課題としてきた。具体的には、経済主体がもつといわれる「合理性」の内容の再吟味や、他主体との関係の中での選好形成の分析などが、様々なアプローチによって進められている。本研究では、このような「経済人」の再構築の流れに依拠しつつ、2つのプロジェクトを進めて行きたい。ひとつは、エージェントの規範的な意識がどのように政治経済行動に影響を与えるのかを主として実験的アプローチによって分析する実証的研究である。もうひとつは、個人の規範意識を社会規範の機軸とみなす妥当性を吟味する規範的研究である。</p>		

研究指導名	社会政策研究指導	担当	教授 白木 三秀 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	<p>社会政策という広い分野を研究するにあたって様々な対象ならびにアプローチがあり得るが、私の主たる研究分野は、現代企業の人的資源管理の実態と政策の分析である。具体的には、多国籍企業の人的資源管理制度と政策の国際比較を行っている。主たるフィールドを東南アジアにおいて、「足で稼ぐ研究スタイル」をモットーにしている。</p> <p>現実の労働市場問題、労働政策、企業の人的資源管理、あるいはアジアに強い関心を持つ博士論文作成者の参加を歓迎する。</p>		

研究指導名	社会保障研究指導	担当	教授 清水 英彦
研究テーマ	<p>本演習においては、社会保障の経済学的分析を理論と実証の両面から研究する。各人は、修士課程における研究を基礎にして、さらに研究を深化発展させ、その成果を随時発表してもらおう。また、学会および研究会へ積極的に参加し、発表を行うことを期待する。</p>		

研究指導名	労働経済学研究指導	担当	教授 村上由紀子 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	<p>本研究では、学生が経済学の分析ツールや理論的フレームワークを用いて、労働市場の作用や結果、労働の現場で生起している諸問題について独創的な研究を行えるように指導する。学生が学界で蓄積されている研究成果を吸収した上で独自性のある研究課題を見つけ、確かな研究方法を用いて研究を進展させ、博士号を取得することを目的とする。</p>		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	教授 須賀 晃一 経済学博士（一橋大）
研究テーマ	<p>この講義では、博士課程終了時での博士号請求論文作成を目標として、公共経済学の中から選んだ各人の研究テーマに関する文献を精読すると同時に、研究の進め方、論文の書き方について講義する。博士論文はいくつかの論文を中核として構成されるので、年に1, 2本の論文を書くことが義務づけられると考えてほしい。また、将来の研究の広がりを考えれば公共経済学全般についての知識が不可欠であろうから、いくつかの基本的な研究書についてレポートを作成してもらおう。</p> <p>参考文献：D. Austen-Smith and J. S. Banks, <i>Positive Political Theory</i> I, II, Michigan UP, 1999, 2005.</p> <p>P. J. Hammond and G. D. Myles eds., <i>Incentives, Organization, and Public Economics</i>, Oxford University Press, 2000.</p> <p>H. J. Moulin, <i>Fair Division and Collective Welfare</i>, MIT Press, 2003.</p> <p>A. Sen, <i>The Idea of Justice</i>, Belknap Press of Harvard University Press, 2009.</p>		

研究指導名	財政学研究指導 —社会保障・税金・地方財政—	担当	教授 牛丸 聡 博士（経済学）（東大）
研究テーマ	<p>本コースの目的は、財政学を研究することである。財政学は様々な話題を含んでいる。例えば、税金、国債、政府支出、社会保障、地方財政等々である。そのなかでも、私は特に社会保障制度に関心をもっている。</p> <p>本博士後期課程において財政学を研究しようと思う学生は、ミクロ・マクロ経済学、公共経済学等々に関する十分な知識を習得していることを求められる。加えて、研究に対する強い意欲と努力が求められる。</p>		

研究指導名	財政学研究指導	担当	教授 馬場 義久
研究テーマ	私の主要な関心は租税論・税制論にあるが、本研究指導は、財政学の領域に属する問題全般を対象とする。博士課程入学を志す諸君は、自らの研究課題と研究方法をあらかじめ明確にしていることが求められる。さらに、今日の財政学の多くは経済理論を土台にしているので、財政制度に関する知識だけでなく、ミクロ経済学およびマクロ経済学を十分に修得していることが求められる。		

研究指導名	環境経済学研究指導	担当	教授 有村俊秀 Ph. D (ミネソタ大学)
研究テーマ	応用ミクロ経済学としての環境経済学の研究を、実証研究を中心としたアプローチで行う。そのため、大学院レベルのミクロ経済学や計量経済学の知識を前提とする。研究指導では、これらの知識をもとに、関連する論文等の輪読を行うとともに、実際にマイクロデータを用いた分析を行う。そのため、ミクロ計量の手法の習得やコンピュータースキルが必要となる。		

研究指導名	公共政策研究指導	担当	教授 福島淑彦 Ph. D. in Economics (Stockholm University)
研究テーマ	本研究指導は、広い意味での「労働経済学」を基礎として、「社会」の厚生水準を高めるための政策や制度について、経済学視点で理論的或いは実証的アプローチで研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「公共政策」であるが、研究内容は主に「雇用」、「失業」、「人的資本」、「賃金」、「教育」、「訓練」、「労働市場における差別」、「転職」、「家庭内労働」、「労働組合」、「福祉」といった「人が働くこと」に関する政策や制度を中心に、博士論文作成のための研究をサポートする。教材には、英文論文や英文テキストを用いるので、それらを読みこなすための「経済学」「数学」の基礎知識に加えて、英語力が必要となる。「人が働くこと」に関して強い関心を持ち、これまで明らかにされていなかった「真理」を明らかにしたいという強い信念と意思のある方を歓迎する。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 秋葉 弘哉 Ph. D. (ニューヨーク州立大)
研究テーマ	国際金融論の理論的及び実証的諸問題について研究する。周知の通り国際金融論は開放マクロ経済学（ないし国際マクロ経済学）と呼ばれるようになった。その基本的な分析手法はマクロ経済学であるが、そのマイクロ・ファウンデーションについての十分な知識を持っていることを前提とする。また計量経済学については、十分な理論的基礎とともに、同時方程式体系の回帰分析までは行った経験を持っていることを前提とする。		

研究指導名	国際経済論研究指導 —国際寡占における戦略的貿易、直接投資 および環境政策の研究—	担当	教授 石井 安憲 経済学博士（一橋大）
研究テーマ	各ゼミ生の研究テーマに応じて、既発表の論文を読んだり、自己の研究報告をしてもらう。ただし、私の現在の研究テーマが、国際寡占産業における戦略的貿易政策、直接投資政策、国際環境政策であるので、このような国際的なテーマに興味を持ち、かつ将来、国際的なレベルの研究者になることを目指す院生を歓迎する。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 内藤 巧 博士（経済学）（阪大）
研究テーマ	志望者は、修士論文が国際査読誌（大体 <b>Japanese Economic Review</b> 以上のレベル）に出版可能と担当教員が納得できるときのみ、この研究指導（国際貿易理論）を受けることが許される。学生は最初の論文を雑誌に投稿し、また博士論文を構成する後数本の論文を書くように訓練される。この研究指導は国際貿易の実証分析、国際金融・国際マクロ経済学、貿易実務等を研究する学生のためのものではない。志望者は < <a href="http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html">http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html</a> >を読むことが必要である。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	准教授 金子 昭彦 博士（経済学）阪大
研究テーマ	この研究指導では、博士号取得のために必要な専門論文作成を指導する。トピックは、動学理論に基づいた国際マクロ経済理論、および貨幣経済理論である。指導は国際学術雑誌への投稿を前提とするため、学生は1) 十分な内容の修士論文作成経験があること、2) 自ら研究テーマを決めていることが必要とされる。		
研究指導名	開発経済論研究指導	担当	教授 深川由起子
研究テーマ	いわゆる外向き工業化が直面する様々な調整、具体的には貿易自由化、産業高度化、外資の受け入れ、金融自由化、負債圧縮、所得格差と社会的安定性維持、労働市場の柔軟化といった外的ショックへの調整においてどういう対応がなされてきたのか、東アジアを中心に制度刷新、制度間の関係変化、制度の調和・均衡など制度的な視点から接近する。まずは世銀などを中心に展開されている持続的経済発展の制度を英文、邦文論文などによって概観する。次いでさまざまな調整経験を実証例として取り上げ、次いで制度の変化が政策目標の達成にどう寄与したか、政策のシークエンス、政策実施のガバナンスなどを論じる。授業は毎回、主要論文を輪読する形式で進めるが、後半は特に個々の関心に応じて特定テーマと国を設定し、実証結果を提示してこれを討論することが求められる。受講者は英語の他にできれば現地の統計、HP を当たれる程度の中国語その他東アジアの言語ができればなお良く、日本の経験に対する関心（現代日本経済史、日本経済論など）を併せて持つことが期待される。		

研究指導名	国際政治経済学研究指導	担当	教授 小西秀樹 経済学博士（東大）
研究テーマ	公共経済学、公共選択論を基礎として、政策決定のメカニズムとその帰結、あるべき制度の構築について、理論的あるいは実証的に研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「国際政治経済学」だが、研究内容は「新政治経済学」であり、国際政治や国際経済とは基本的に無関係なので注意せよ。（研究テーマの例としては、たとえば小西秀樹「公共選択の経済分析」（2009年、東大出版会）を参照せよ）教材には最先端の英文論文や大学院レベルの英文テキストを用いるので、それらを読みこなすのに最低限必要なレベルの経済学、数学についての知識、および英語力を持っていることが必要である。経済学については、①ミクロ経済理論（MasColell 他あるいは Varian の大学院向け教科書のレベル）、②非協力ゲーム理論（MasColell 他あるいは Gibbons の大学院向け教科書のレベル）を、習得していなければならない。		